



日中はまだまだ暑い日が続きますが、気づけば日ごとに陽が沈むのが早くなっています。夏の遊びを楽しんだ子ども達、少しずつ疲れも出はじめる頃、体調を崩さないように睡眠や休息を十分とりましょう。



新型コロナウイルスが猛威を振るい、村内でも連日のように感染者が増え、感染症を気にしながら過ごす日々が続いています。保育所でも感染症対策を強化しているところです。子ども達への感染を防ぐために、保育士や保護者が子どもの命を守る行動を考えなければなりません。

子どもたちが思いっきりのびのびと遊びに集中できる日が来ますように。栄養をしっかりと、コロナに負けない体づくりをしていきましょう。



新年度がスタートし半年目に突入!!

体力もつき動きも活発になり怪我が多くなる時期です。

好奇心旺盛な子ども達、高い所（段差）からジャンプしたり、よじ登ったり、ぶら下がってみたり等、色んな事にチャレンジしようとする姿が多く見られるようになってきました。遊びを見守り保育をしています、とっさの行動をすることがあり、転んでしまうという場面も…。

ご家庭でも公園で遊ぶことも多くあると思います。大きな怪我を起こさないためにも近くで見守り安全面に気をつけていきましょう。



すり傷の対処法

- ・傷口に入った砂などの異物を水で洗い流しましょう。
- ・ガーゼに傷薬を厚めにのばして張り付け、毎日交換しましょう。
- ・はがした後の傷は、痛くない程度に洗いましょう。

切り傷の対処法

- ・水道水で傷口を洗いましょう。
- ・絆創膏などで傷口を固定します。（傷口が開かないように固定すると、痛くなく、早く治すことができます）
- ・傷が深い、出血が止まらない等の時は、すぐに受診しましょう。

近年、子どもに関する悲しい出来事を、ニュース・新聞でよく目にするようになってきました



乳幼児突然死症候群(SIDS)

- ・SIDSは、何の予兆も既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因の分からない病気です。
- ・令和2年度には95名の乳幼児がSIDSで亡くなり、乳児期の死亡原因の第3位です。

SIDSの予防法は確立していませんが、以下の3つのポイントを守ることにより、SIDSの発症率が低くなるというデータがあります。



1 1歳になるまでは、寝かせる時は仰向けに寝かせましょう

SIDSは、うつぶせ、あおむけのどちらでも発症しますが、寝かせる時にうつぶせに寝かせた時の方がSIDSの発症率が高いという事が研究者の調査から分かっています。この取り組みは、睡眠中の窒息事故を防ぐ上でも有効です。



2 できるだけ母乳で育てましょう

母乳育児が赤ちゃんにとっていろいろな点で良いことはよく知られています。母乳で育てられている赤ちゃんの方がSIDSの発症率が低いということが研究者の調査から分かっています。出来るだけ母乳育児にトライしましょう。



3 タバコをやめましょう

タバコはSIDS発症の大きな危険因子です。妊娠中の喫煙はおなかの赤ちゃんの体重が増えにくくなりますし、呼吸中枢にも明らかによくない影響を及ぼします。妊婦自身の喫煙はもちろんのこと、妊婦や赤ちゃんのそばでの喫煙はやめましょう。これは、身近な人の理解も大切ですので、日頃から喫煙者に協力を求めましょう。

☆保育所では、午睡時に5分、10分おきにSIDSチェック表のチェックを行っています。

- チェック項目
- ①胸やお腹を見て呼吸があるか
 - ②寝具が顔にかかっていないか
 - ③体が冷たくなっていないか

☆うつぶせ寝の場合、突然死症候群を防ぐため、仰向けか横向けに直しています。
※よく眠っているからと言って長時間乳幼児を一人にしないようにしましょう。

★ 子どもの事故を防ぐヒントは『ヒヤッと』にあり！

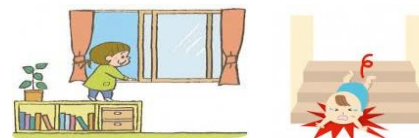
子供もがケガをしそうで「ヒヤッとした」時こそ、チャンスです。なぜヒヤッとしたのか見直すと、次の事故を防ぐことができます。

①ダメ!危ない!!はそこが危険のサイン



叱って制止するより安全な環境整備を

②一度あれば二度、二度あることは三度ある



理由や原因を考え、対策をとる

③大人も一緒にやってみる



子どもの目の高さでチェックしてみる